

「ニュー・ブリテン」から「アメイジング・グレイス」までの系譜

一 はじめに

筆者は本誌に「アメイジング・グレイス」の起源と背景」と題する小論を発表した。⁽¹⁾ その中で、エドウィン・エクスセルが一九〇〇年に「アメイジング・グレイス」という曲名で「賛美歌らしい」和声（つまり、全音階）を付けた編曲をした、という趣旨のことを述べた。このこと自体に誤りはないが、エクスセル版は一八三五年の『サザン・ハーモニー』版（「ニュー・ブリテン」）ないしはその後継で同じ楽譜の『セイクレッド・ハーブ』版（一八四四）から直接由来するかのような印象を与えたかもしれない。「ニュー・ブリテン」は編曲も五音音階で主旋律はテノールに置かれているのでそのまま広く歌い継がれてきたとは

櫻井雅人

思えなかったが、しかるべき研究・調査でもこの間（一八四四―一九〇〇）に「アメイジング・グレイス」の歌詞で「ニュー・ブリテン」ないしは同系の旋律による楽譜があることは確認できなかったし、筆者の手元にも資料がなかった。それゆえ「ニュー・ブリテン」が五十六年後にエクスセルの「アメイジング・グレイス」に直接引き継がれたかのような記述になってしまった。「アメイジング・グレイス」の歌詞のほうはさまざまな異なった旋律で歌われ続けたことは知られているが、その後に入手したいくつかの版を参照したところ、曲のほうも依然としてさまざまな異なった歌詞で歌われていた。つまり、一八四四年以降も歌詞と曲とは別々に歌われ続けたのであり、エクスセル版は『サザン・ハーモニー』版を編曲したものではないという

可能性がでてきた。以下は筆者が目にした賛美歌集などの限られた資料に基づいており、完璧な調査には程遠いが、新たに判明したことを中心にしてこのあたりの事情をまとめてみることにした。

二 歌詞を中心とした系譜

ジョン・ニュートンの歌詞(一七七九年出版)⁽²⁾には曲が付いていなかったし、曲名も指定されていなかった。一八二〇年までをカヴァーしているテンパリーの詳しい賛美歌曲名索引によると、初めて曲が付けられたのは一八〇八年のことだ⁽³⁾。グリーン編『ハンティントン伯爵夫人賛美歌コンピニオン』(W. Green, *A Companion to the Countess of Huntingdon's Hymns* (London: J. Peck, [c.1808])におおづンスンズ(Husband)作曲の「クンズ」(HEPHZIBAH)と組み合わされた。一八一一年にはジョン・フォアマン編『詩編・賛美歌曲集』(John Fawcett, of Kendal [Westmorland], *A Set of Psalm & Hymn Tunes*, London: For the author by James Peck, [c.1811])におおづ「ノーフォーク」(NORFOLK)という曲が添えられた。一八二〇年以前にはこの二曲しかない。

「クンズ」は、スミスとメイジャーの『詩編歌曲集』(Is[aac] Smith and S. Major, *A Collection of Psalm Tunes*, Ed.5, London: S. Major, [c.1790])に「There is a land of pure delight, where saints immortal reign」の歌詞で収録された曲である。「ノーフォーク」のほうは初めはウィリアム・タンサーの『ロイヤル詩編歌作者完全版』(William Tans'ur, *The Royal Psalmist's Compleat*, [n.p.]: The author, March 25, 1748)に「How perfect is the law of God! How pure his covenant!」の歌詞で「ブランプトン」(BRAMPTON)という曲名で収録されたもので「ノーフォーク」という曲名としてはアーロン・ウィリアムズ編『ユニヴァーサル詩編歌作者』(Aaron Williams, *The Universal Psalmist*, London: Joseph Johnson, 1763)にぎゅる「Oh, come, loud anthems let us sing, loud thanks to our almighty king」の歌詞が初出である。つまり、「アメイジング・グレイス」は発表後二十年ほどしてから既存の曲を流用して歌われ始めたことになる。少なくとも独自の曲は確認されていない(S. Leonardの曲については後述)。

一八二〇年以降の調査はきわめて大きな困難が伴う。

ワッソンが編纂した賛美歌曲目索引は四二三点の賛美歌集に含まれるすべての曲の索引でもっとも詳しい参考図書であるが、十九世紀のマイナーな賛美歌集まではカヴァーしていないし、歌詞初行索引がないので、⁽⁴⁾「アメイジング・グレイス」の歌詞で歌われた曲であるのかわからない(また、テンバリーと同じく、歌詞のみの賛美歌集は対象外である)。ディールの索引では、歌詞初行からも引くことができるが、主に二十世紀の主要教派の賛美歌集が対象で七八点と少なく、わかることは収録賛美歌集名までで旋律・曲名との対応が示されていない。ジョン・ジュリアンの『賛美歌学辞典』⁽⁵⁾はいまだに有益な参考図書ではあるが、⁽⁶⁾曲については頼りにならない。特定の賛美歌集の解説書(「コンパニオン」とか「ハンドブック」などと呼ばれ、日本基督教団の『略解』が相当する)は参考になる点が多い⁽⁷⁾が、解説書であるから大方はそれほど詳しくないし、中には二次的な情報に基づいているものもある。ステイーヴ・ターナーの著書『アメイジング・グレイス』は、曲の系譜⁽⁸⁾についてはあまり新しい情報がなく、楽譜も示されていない。一般の読者に向けて書かれた数多くの賛美歌物語の類⁽⁹⁾は概して内容があてにならない。このような事情であるか

ら、確かなことを言うには実際に元の楽譜等を見なくてはならない。

十九世紀中期ころまでの賛美歌集には歌詞のみで曲名さえも付されていないものが多く、それらは如何なる節で歌われたのか不明である。たとえば、「アメイジング・グレイス」は Making of America (U Michigan)⁽¹⁰⁾ のコレクションでは以下の賛美歌集に収録されているが、歌詞のみで曲の指定もされていない。

1850: *Parish Hymns: A Collection of Hymns for Public, Social, and Private Worship, Selected and Original* (Philadelphia: H. Perkins, 1850), no. 256. 四連(以下、四連版では「ニュートマンの一二三・五連が多い」)。

1851: *Sacred Melodies for Conference and Prayer Meetings, and for Social and Private Devotion* (Dover, N.H.: Free-Will Baptist Print Establishment, 1851), p. 221. 四連。

1852: *Social Psalmist, or Hymns, Selected for the Private Use and Social Meetings of Evangelical Chris-*

ングランド出身のアブサロム・ウリスクロフト (Absalom Wooliscroft) は一八三〇年から三三二年にかけてナンタッキーで巡回牧師をこころごときに “Amazing Grace” を説いた。

(c) *Virginia Baptist Ministers*, by James Barnett Taylor (Philadelphia, & Richmond, Va.: J. B. Lipincott & co., T. J. Starke [etc., etc.], 1859), pp. 53-54. 病床にこころづいた牧師のジョン・ウェザーフォード (John Weatherford 一八三三年死去) は “Amazing Grace” を母田説くべゆふたうと所説したと云う。

(d) *The Western Sketch-book*, by James Gallaher (Boston & New York: Crocker and Brewster; M. W. Dodd [etc., etc.], 1850), pp. 62-63. 家族で歌ったと云うが年代不明 (一八二〇年代ないし三〇年代である)。歌詞を正確に記録してゐるので、賛美歌集から転記したものと思われる。

また、イーノス・ダウリング賛美歌集コレクションには以下に「アメイジング・グレイス」が収められてゐる。

曲・曲名が付いてゐるものもあり、付いてゐるものでも「ニュー・ブリテン」ならしては「ハーモニー・ズローヴ」は一つもなから。リナード (S. Leonard) が作曲したと云ふ AMAZING GRACE は「リナー・ソリンソン」ではなくて、たゞ異なる曲で、他の賛美歌から借用したものでなければ「アメイジング・グレイス」独自の曲として唯一であるかも知れぬが、歌の縁がわづこなかった。

1815: *The Christian Hymn-Book*, by John Thompson et al. (Looker and Wallace, 1815), p. 89. 四歌謡のみ。

1829: *The Christian Hymn-Book*, by B. W. Stone and T. Adams (N. L. Finnell, 1829), p. 144. 七歌謡のみ。

1834: *Psalms Hymns and Spiritual Songs*, by A. Campbell/ W. Scott/ B. W. Stone/ J. T. Johnson (A. Campbell, 1834), p. 184. 四歌謡のみ。

1843: *Psalms Hymns and Spiritual Songs*, by A. Campbell/ W. Scott/ B. W. Stone/ J. T. Johnson (A. Campbell, 1843), p. 184 (part I). 曲名 MEAR

楽譜など。

1850: *The Christian Psalmist*, by Silas W. Leonard and A. D. Fillmore (S. W. Leonard, 1850), p. 294. 五連^レ 歌謡の☆。

1850: *The Christian Psalmist*, by Silas W. Leonard and A. D. Fillmore (S. W. Leonard, 1850), p. 294. 作曲者 S. Leonard^レ 曲名 AMAZING GRACE (賛詩 題)^レ 四連。

1854: *Psalms, Hymns and Spiritual Songs*, by Alexander Campbell (A. Campbell, 1854), p. 479. 四連^レ 賛詩の☆。

1865: *The Christian Hymn Book*, by Alexander Campbell (Central Book Concern, 1865), p. 246. 四連^レ 歌謡の☆。

1867: *Fillmore's Christian Psaltery*, by A. D. Fillmore and Robert Skene (R. W. Carroll & Co., 1867), p. 138. 作曲者 T. Hastings^レ 曲名 NEW BED-FORD^レ 四連。

1867: *Fillmore's Harp of Zion*, by A. D. Fillmore (R. W. Carroll & Co., 1867), p. 98. 作曲者なし^レ 曲

名 NOYES (賛詩 題)^レ 四連。

1871: *The Christian Hymnal*, Under direction of the Christian Hymn-Book Committee (Bosworth Chase & Hall, 1871), p. 107. 作曲者 Glaser^レ 曲名 AZ-MON^レ 四連。

1882: *New Christian Hymn and Tune Book*, by Fillmore Brothers (Fillmore Brothers, 1882), p. 108. 作曲者 Lowell Mason^レ 曲名 CORINTH^レ 四連。

1882: *The Christian Hymnal Revised*, by A. I. Hobbs et al. (Christian Publishing Co., 1882), p. 234. 作曲者 C. Glaser^レ 曲名 AZMON^レ 四連。

現在でも使われている『ナルモニア・サクラ』では「グリーンヴィル (GREENVILLE)」という曲名で載っている(ただし、曲名は同じではあるが「おちんぴちわらわ」とはまったく異なる旋律である)。もう一方では、現行の「ブレイジング・グレイス」の曲には「ソーロン (SO-LON)」という名が付けられている⁽²¹⁾。異なった歌詞 (“There is a fountain fill'd with blood”) がある⁽²²⁾。『クニモニヤ・サクラ・ソングブック』にはある⁽²³⁾「グリーン

ヴァイル」はファンク編『真正教会音楽集』(Joseph Funk, *A Compilation of Genuine Church Music*, 1832) が出版であり、「ソーロン」はショーとスゴルマンの『コロムブアン・ハーモニー』(Shaw and Spilman, *The Columbian Harmony*, 1829) からとられたものである(初出文献とどう意味でもらう)。

その他の例を見ても、「アメイジング・グレイス」の歌詞には異なった曲が伴う。前稿でもいくつかを紹介したし、さらに以下もある。

1865: *Songs for the Sanctuary: or, Hymns and Tunes for Christian Worship* (New York etc.: A.S. Barnes, [1865], new ed. 1872), p. 196 (no. 648). 曲名 ARLINGTON 五種。

1886: *The College Hymn Book: for Use in the Battell Chapel at Yale College*, with tunes selected and arranged for male voices (New York: W.A. Pond, 1886), p.106 (no. 217). 曲名 HELP.⁽¹⁵⁾

1886 [1892]: *The Otterbein Hymnal for Use in Public and Social Worship*, by Edmund S. Lorenz (Day-

ton, Ohio: United Brethren Publishing House, 1892), no. 332. 曲名 BALERMA 歌謡のみ、四聲。⁽¹⁶⁾

日本でも明治時代にくつもの訳詞が作られたが、それらの曲はいずれも「ニュー・ブリテン」や「ハーモニー・グロウヴ」ではなかった。⁽¹⁷⁾ 日本の賛美歌集のみならず、それらの原典と考えられるアメリカの賛美歌集にも「ニュー・ブリテン」は見当たらない。⁽¹⁸⁾

このように、『サザン・ハーモニー』(および『セイクレッド・ハーブ』)からエクセルまでの間に出版された賛美歌集では、今のところ筆者が参照したものに限られるが、「アメイジング・グレイス」の曲はいずれも「ニュー・ブリテン」や「ハーモニー・グロウヴ」ではなく、または「ニュー・ブリテン」であることを確認できない。結論を急ぎすぎているかもしれないが、十九世紀のアメリカで「ニュー・ブリテン」による「アメイジング・グレイス」はあまり知られていなかったようである。「ニュー・ブリテン」版の「アメイジング・グレイス」が「十九世紀のアメリカ南部で発行された各種の讚美歌集にはたいい収められて」いるとの解説があるが、何を根拠としたものかわ

からない。その曲は「ニュー・ブリテン」ではなかったと言うのなら理解できないこともないが、『サザン・ハーモニー』(一八五四年版)の出版地はニューヨークであって「南部」ではないし、他の歌集も同様である。「ニュー・ブリテン」版は「決定版」として確立することなく半世紀以上が過ぎていったと考えるのが至当である。

異なる曲の「アメイジング・グレイス」はエクセル以後もまだ続く。一九〇二年に出版の『プリミティブ・バプティスト賛美歌集』では、歌詞はニュートンの六連であるが、「メロディー (MELODY)」という名の曲が付けられている。⁽²⁰⁾「ニュー・ブリテン」の曲も収録されているが、曲に付けられた十編の歌詞はことごとく「アメイジング・グレイス」ではない(後述)。シェイプ・ノートでは「ニュー・ブリテン」一辺倒であるかという点、そうではない。現行版『セイクレッド・ハーブ』に「ニュー・ブリテン」は含まれているものの、他の曲も付なれている。さらにまったく別の曲を採用しているものもある。⁽²¹⁾アラン・ローマックスが採録した「Hallelujah / Amazing Grace」(Singing led by Miss Malden, Fyffe, Alabama)の第二―三連の歌詞は“Amazing Grace”であるが、折り返しに

“We'll All Sing Hallelujah”が加えられたヴァージョンで、旋律も「ニュー・ブリテン」とは異なる。⁽²³⁾オールド・レギュラー・バプティスト派などの民俗的な賛美歌でも違う旋律で歌われてきた。リーダーが一行ずつ読み上げるところに会衆が後をついて斉唱で唱和する「ライニング・アウト (lining out)」という歌唱形式をとっていて、ゆったりとしたリズムで装飾的な節回しである。⁽²⁴⁾ただし、「ニュー・ブリテン」の旋律ももちろん用いられている。⁽²⁵⁾

三 曲を中心とした系譜

記録上は一八二九年の『コロンビアン・ハーモニー』における「ギャラハー」および「セント・メアリーズ」に始まり、一八三五年の『サザン・ハーモニー』において「ニュー・ブリテン」なる曲名で「アメイジング・グレイス」の歌詞と一体となるが、その後もこの曲はHARMONY GROVE; SYMPHONY; REDEMPTION; MID-DLETON; SOLON; FRUGALITY; ANDERSON; CHALMERS; HARMONY などとも呼ばれて異なった歌詞で歌われ続けた。むしろ、曲名は「ニュー・ブリテン」のほうが珍しい。「ニュー・ブリテン」なる曲名とともに

伝えられなかったのは、『サザン・ハーモニー』版を引き継いでこなかったためかもしれない。少なくとも引き継ぐという精神はなかったようである。たまたま『サザン・ハーモニー』版には「アメイジング・グレイス」の歌詞が付いていたために（現在では）この曲名だけが注目されているが、以下のように他の賛美歌集では異なった曲名が付けられていたので、曲そのものが知られていかなかったという意味ではない。

関連する賛美歌集を年代順に並べてみよう（賛美歌集名に付けたアステリスク一つはイーノス・ダウリング賛美歌集コレクション所蔵、アステリスク二つは筆者未見であることを示す）。

- 1829: *Columbian Harmony*. 曲名 ST. MARY'S' 歌題 "Arise my soul, my joyful pow'rs"/ 曲名 GALLAHER' 歌題 "Come let us join our friends above"
 [facsimile scores reproduced in *The Hymnal 1982 Companion*, vol. III, pp. 1236-43, and *Companion to the New Harp of Columbia*, pp. 165-66] 楽曲の五拍音階。

- 1831: * *Virginia Harmony*. 曲名 HARMONY GROVE' 歌題 "There is a land of pure delight" (w. Isaac Watts)

- 1835: *Southern Harmony and Musical Companion* (rpt. from the fifth printing of the 1854 ed.; University Press of Kentucky, 1987), p. 8. 曲名 NEW BRITAIN' 歌題 "Amazing grace! (how sweet the sound)" 六拍 編曲の五拍音階。

- 1843: * *Psalms, Hymns and Spiritual Songs*, by A. Campbell/ W. Scott/ B. W. Stone/ J. T. Johnson (A. Campbell, 1843), p. 242 (part D). 曲名 HARMONY GROVE (楽譜なし)' 歌題 "And now another day is gone."

- 1843: * *Psalms, Hymns and Spiritual Songs*, by A. Campbell/ W. Scott/ B. W. Stone/ J. T. Johnson (A. Campbell, 1843), p. 190 (part D). 曲名 HARMONY GROVE (楽譜なし)' 歌題 "For me O did my Saviour bleed."

- 1844: *The Sacred Harp*, by B. F. White and E. J. King (rpt. from the third (1889) edition; Nash-

64, 213. 279-286. 作曲者 Aaron Chapin [sic] (no.

集。

213 以下 Southern Melody) 作曲 NEW BRITAIN'

1916: *Praiseworthy*, by E.O. Excell (Chicago, E.O.

歌詞 "In Thy great name, O Lord" など十段 (たまた

Excell, 1916). けれどもエンゼルの賛美歌集でもなか

ま "Amazing grace" の歌詞は含まれていない。楽

不思議なことにされまの三点とは違っているのは

譜を参照。

"Amazing grace" の曲も歌詞もな。 「人気」のある

1909: * *World Renowned Hymns*, by E.O. Excell.

歌には思わなかったから落としたのであろうか。

作曲 AMAZING GRACE' 歌詞 "Amazing grace

1926: *The Modern Hymnal*, edited by Robert H.

how sweet the sound."

Coleman (Dallas, Texas: The Broadman Press,

1910: *Coronation Hymns*, by E.O. Excell (Chicago,

1926), no. 120. 作曲 AMAZING GRACE' 編曲者 E.

E.O. Excell, 1910), no. 282. 作曲 AMAZING GRACE'

O. Excell' 歌詞 "Amazing grace how sweet the

編曲者 E. O. Excell' 歌詞 "Amazing grace how

sound" 四連。

sweet the sound." 回々四連はな。 第四連を

ジャクソンがシェイプ・ノート歌謡 (当時は「白人靈

"When we've been there ten thousand years" に取

歌」と呼んだ) を研究したところ (一九三〇年代) までには

り替えた。また、一九〇〇年版とは編曲が違う。楽譜

ほぼ現行のような組み合わせが定着したと思われる。シェ

を参照。

イブ・ノートでは『セイクレッド・ハープ』の役割が大き

1913: *The Good Old Songs*, comp. by Elder C.H.

かったに違いない。エクセル版のほうは徐々に他の賛美歌

Cayce (Thornton, Arkansas: Cayce Publishing

集に取り入れられていったが、一般にも広く知られるのは

Company, [1913], 1941), no. 294. 作曲者 Chapin

一九七〇年ころになってからのことである。

[sic] 作曲 NEW BRITAIN' 歌詞 "Amazing grace!

(how sweet the sound)" 四連。シェイプ・ノート歌

四 まとめ

以上のように、「アメイジング・グレイス」の歌詞が「ニュー・ブリテン」の曲と組み合わせられたのは『サザン・ハーモニー』であったが、このヴァージョンはシェイプ・ノート以外の賛美歌集に引き継がれてこなかった。『サザン・ハーモニー』以外の十九世紀の賛美歌集においては、「アメイジング・グレイス」の歌詞には別のさまざまな曲が配されており、「ニュー・ブリテン」(または「ハーモニー・グロウヴ」など)の曲には別のさまざまな歌詞が配されてきた。旋律・編曲を見ても、エクセルの「アメイジング・グレイス」は、『サザン・ハーモニー』から直接受け継いだものではなく、「ハーモニー・グロウヴ」の後継版を元にしてそこに「アメイジング・グレイス」の歌詞を当てはめたと考えられる。もしかするとエクセルは『サザン・ハーモニー』版を知らなかったかもしれない。たとえ知っていたとしても、歌詞と曲を組み合わせることをヒントにした程度であって、旋律と編曲、スタンザ(一、二、三、五)の選択は『サザン・ハーモニー』版を基にしているのである。

『賛美歌二一』(一九九七)は曲名を AMAZING GRACE (NEW BRITAIN) とつづるが、このカッロ内の表示はあまり適切とは言えない(日本聖公会『改訂古今聖歌集試用版』no. 2118「やなしき息吹の」では順序を入れ替えて NEW BRITAIN (AMAZING GRACE) とする)。曲そのものに目を向けると AMAZING GRACE (HARMONY GROVE) のほうが記録に即しているのである。さらに『讚美歌二一略解』(一九九八)では「スコットランドやアイルランドからアメリカへ移民として渡った農民たちが、この詞を自分たちの民謡的な旋律と組み合わせて愛唱するようになりました」と解説しているが、事実であろうか。少なくとも十九世紀においては「ニュー・ブリテン」の「アメイジング・グレイス」は『サザン・ハーモニー』版を使用した人々の間だけで歌われていたのであって、「スコットランドやアイルランド」の「移民」に限定することはかえって不正確で、おそらく誤りであろう。『サザン・ハーモニー』や『セイクレッド・ハープ』あるいはエクセルの賛美歌集を「スコットランドやアイルランド」の「移民」たちが使わなかったとは言い切れないが、この歌を「愛唱」したのはむしろ彼ら以外の人々ほうは

るかに多かったと考えられるからである。また、「ニュー・ブリテン」が「自分たちの民謡的な旋律」であったという証拠もないし、とくに「アイルランド」との結びつきには大いに疑問がある。もしも「自分たちの民謡的な旋律と組み合わせ愛唱する」ことがあったとするならば、その曲は「ニュー・ブリテン」ではなかったと推測されるが、今のところそのような記録も見つからない。もとより「非存在の証明」はほとんど不可能であるが、新たな証拠が出ない限り以上のようにまとめておくのが合理的だと考える。

(一) 「アメイジング・グレイス」の起源と背景』『一橋論叢』(二三〇巻三号、二〇〇三年九月号) 一六五—一八七頁。なお、この場を借りて誤りを訂正させていただく。

一七二頁。イギリスでも最近の賛美歌集にはたいてい含まれている。

一七三頁。『セイクレッド・ハーブ』初版の刊行年は「一八四四年」が正しい。

一七五頁。エクセルが“When we've been there ten thousand years”のスタンザを新たに付け加えたと書いたがこの連は一八五二年に出版されたストーリーの『アンクル・ト

ムの小屋』(Harriet Beecher Stowe, *Uncle Tom's Cabin*, Chapter 36) の中で引用されている「アメイジング・グレイス」(曲は不明) に含まれているので(ただし第六、五連とこの連のみであって、題名や第一連は引用されていない)、エクセルの発案ではなかった。

一七六頁。「Loving Lambs」については、『讚美歌第二編略解』(日本基督教団出版局、一九六九、一九七四、二一九頁)にも「一説」として紹介されているので、オズベック独自の説ではない。

一七七頁。シャクソンに転載されたLoving Lambは、出典先の Joseph Hillman, *The Revivalist* (Troy, NY: Joseph Hillman, 1872 ed., no. 322) を参照する事ができた。同じページの下に別曲の“Amazing Grace”(no. 323、二連) が載っていることも興味深いので楽譜 4 に示す。また、この曲は『讚美歌』(一九五四) の三三〇番「あめなるわが家を」(曲名HARP、作曲者 Stephen Jenks) であることを見落としていた(『讚美歌略解(後編・曲の部)』には原曲についての記述がない)。明治版(一九〇三)と昭和六年(一九二二)版の『讚美歌』から引き継がれたもので、『諸付基督教聖歌集』(一八九五)で「二〇二番「あめふるわがやを」(曲名HARP)として載っている。また、聖イエス会の『靈歌』(一九六三)の「う

- きなやみの夜も」でもある(曲名なし)。ワグネルの賛美
 歌曲索引(後述)によると、アメリカでは HARP ではな
 く COMMINION (または RESIGNATION) の曲名で、
The Brethren's Tune and Hymn Book (1872) に記載され
 ていると云う。
- 一七八頁。日本では『讚美歌第三編』が「はやぶらうであ
 る」と書いたが、中田羽後編『リヴイヴル聖歌』(日本聖
 歌協会、一九五五)に「一九三番『よかなるめぐみよ』とこ
 て載っているのが、戦前からかまされてきた。
- (2) ニュートンが奴隸貿易に従事してゐるとも聞かれた黒
 人たちの歌(旋律)が「アメイジング・グレース」(曲
 のもとになった、あるいはどこかに関連がある、その十
 イーヴな見解があるが、まったくの憶測であつて誤りでは
 ない。
- (3) Nicholas Temperley, ed., *The Hymn Tune Index*, 4
 vols. (Oxford: Clarendon Press, 1998).
- (4) D. DeWitt Wasson, ed., *Hymn tune Index and Re-
 lated Hymn Materials*, 3 vols. (Lanham, Maryland &
 London: The Scarecrow Press, 1998).
- (5) Katharine Smith Diehl, *Hymns and Tunes: An In-
 dex* (New York and London: The Scarecrow Press,
 1966).
- (6) John Julian, *A Dictionary of Hymnology*, 2 vols.
 (1892, 1907; rpt. New York: Dover Publications, 1957).
- (7) ウェッド Raymond F. Glover, ed., *The Hymnal 1982
 Companion*, 3 vols. (New York: Church Hymnal Cor-
 poration, 1994) & Marion J. Hatchett, *A Companion to
 the New Harp of Columbia* (Knoxville: University of
 Tennessee Press, 2003) など。
- (8) Steve Turner, *Amazing Grace: The Story of Amer-
 ica's Most Beloved Song* (New York: Ecco Press, 2002).
- (9) Mary Rourke and Emily Gwathmey, *Amazing
 Grace: Our Spiritual National Anthem* (Santa Monica,
 CA: Angel City Press, 1996) の巻末に、曲の楽譜とそ
 のたぐい載せてある。
- (10) Making of America (<http://www.hti.umich.edu/m/moa/>). オンラインデータベースの検索は、クエリに「ハ
 イム」を参照して、その結果から「アウテン」を〇〇
 年—1910年と検索する。
- (11) Enos E. Dowling Hymnal Collection (<http://www.ics.edu/library/hymnals/>).
- (12) *The Harmonia Sacra*, 25th ed. (Intercourse, PA: Good Books, 1993), p. 115 (Greenville), p. 109 (Solon).
- (13) *Harmonia Sacra Handbook* (<http://www.mhcc.org>).

Lloyd, *The Primitive Hymns, Spiritual Songs, and Sacred Poems* (1841, 1934; rpt. Rocky Mount, NC: Primitive Hymns Corporation, 1999, no. 3: "Amazing grace") は歌詞のみの賛美歌集で曲名もタイトルも付されていない。

本文中、言及されている楽曲の楽譜は次頁以降参照。

(一橋大学経済学研究科教授)

楽譜 1

No. 234.

Glorious Fountain.

[For Hymn, see No. 237.]

Cleansing.

USED BY PERMISSION.

T. C. O'KANE.

1. { There is a foun-tain fill'd with blood, fill'd with blood, fill'd with blood, There
And sinners, plung'd beneath that flood, beneath that flood, beneath that flood, And

CHORUS.
is a fountain fill'd with blood, Drawn from Immanuel's veins, } O glo-ri-ous
sinners, plung'd beneath that flood, Lose all their guilt-y stains. }

foun-tain! Here will I stay, And in Thee ev-er wash my sins a - way.

No. 235.

Amazing Grace.

JOHN NEWTON.

Grace.

E. O. E. Arr.

1. A - maz - ing grace! how sweet the sound, That sav'd a wretch like me!
2. 'Twas grace that taught my heart to fear, And grace my fears re - liev'd;
3. Thro' ma - ny dan - gers, toils, and snares, I have al - read - y come;
4. The Lord has prom-is'd good to me, His word my hope se - cures;

No. 236. Wash Me in the Blood.

Gleashing.
[For Hymn, see No. 237.] COPYRIGHT, 1887, BY E. O. EXCELL. E. O. EXCELL.

1. { There is a foun - tain fill'd with blood, Drawn from Im - man - uel's veins, }
And sin - ners, plung'd be - neath that flood, Lose all their guilt - y stains. }

CHORUS.

Sav - ior, wash..... me in the blood, Sav - ior, wash..... me
Sav - ior, wash me in the blood, in the blood, the blood of the Lamb, Sav - ior, wash me in the blood,

in the blood, O, And I shall be whit - er than the snow.
in the blood, the blood of the Lamb, O,

Amazing Grace.

No. 235. Concluded.

I once was lost, but now am found, Was blind, but now I see.
How pre - cious did that grace ap - pear The hour I first be - liev'd.
'Tis grace hath bro't me safe thus far, And grace will lead me home.
He will my shield and por - tion be As long as life en - durea.

楽譜 2

64 New Britain. C. M.

Watts. Chapin.

1. Why should the chil-dren of a King Go mourning all their days?
2. Dost Thou not dwell in all Thysaints, And seal them heirs of heav'n?

Great Com-fort - er, de - scend and bring Some tok - ens of Thy grace.
When wilt Thou ban - ish my complaints, And show my sins for - giv'n?

- 3 Assure my conscience of her part
In the Redeemer's blood;
And bear Thy witness with my heart
That I am born of God.
- 4 Thou art the earnest of His love,
The pledge of joys to come;
And Thy soft wings, celestial Dove,
Will safe convey me home.

65 C. M. WATTS.

- 1 How helpless guilty nature lies,
Unconscious of its load;
The heart unchanged can never rise
To happiness and God.
- 2 Can aught beneath a power divine,
The stubborn will subdue?
'Tis Thine, eternal Spirit, Thine,
To form the heart anew.
- 3 'Tis Thine the passions to recall,
And upwards bid them rise,
And make the scales of error fall
From reason's darkened eyes.
- 4 To chase the shades of death away,
And bid the sinner live;

A beam of heaven, a vital ray,
'Tis Thine alone to give.

- 5 O change these wretched hearts of ours
And give them life divine;
Then shall our passions and our pow'rs,
Almighty Lord, be Thine.

66 C. M. BEDDOMS

- 1 The blessed Spirit, like the wind,
Blows when and where He please;
How happy are the men who feel
The soul enlivening breeze.
- 2 He moulds the carnal mind afresh,
Subdues the power of sin,
Transforms the heart of stone to flesh
And plants His grace within.
- 3 He sheds abroad the Father's love,
Applies redeeming blood,
Bids both our guilt and fear remove,
And brings us home to God.
- 4 Lord, fill each dead, benighted soul
With light, and life, and joy;
None can Thy mighty power control
Or shall Thy work destroy.

楽譜 3

No. 281. O Love that Wilt Not Let Me Go.

George Matheson.

Albert L. Peace.

1. O Love that wilt not let me go, I rest my wea-ry soul in Thee,
2. O Light that followest all my way, I yield my flickering torch to Thee;

I give Thee back the life I owe, That in Thine o-cean depths its flow
My heart restores its bor-rowed ray, That in Thy sun-shine's glow its day

3 O Joy that seekest me through pain,
I cannot close my heart to Thee;
I trace the rainbow through the rain,
And feel the promise is not vain
That morn shall tearless be.

4 O cross that liftest up my head,
I dare not ask to hide from Thee;
I lay in dust life's glory dead,
And from the ground there blossoms red
Life that shall endless be.

No. 282. Amazing Grace.

Arr. by E. O. Excell.

1. "A-maz-ing grace! how sweet the sound, That saved a wretch like me! I once was lost, but
2. "T was grace that taught my heart to fear, And grace my fears relieved; How precious did that

3 "Through many dangers, toils and snares,
I have already come;
'T is grace hath brought me safe thus far,
And grace will lead me home."
now am found, Was blind, but now I see."
grace ap-pear The hour I first be-lieved!" 4 "When we've been there ten thousand years,
Bright shining as the sun,
We've no less days to sing God's praise
Than when we first begun."

楽譜 4

322 Loving Lamb. C. M.

1 { In e-yil long I took de-light, Un-aw'd by shame or fear,
Till a new ob-ject struck my sight,

Chorus. O, the Lamb, the lov - ing Lamb, The Lamb of Cal - va - ry,
The lamb was slain, but lives a - gain,

And stopp'd my wild ca-reer.

4 My conscience felt and own'd the guilt,
And plung'd me in despair;
I saw my sins his blood had spilt,
And help'd to nail him there.

To in - ter - cede for me.

- 2 I saw one hanging on a tree,
In agonies and blood,
Who fix'd his languid eyes on me,
As near his cross I stood.
- 3 Sure never to my latest breath
Can I forget that look;
- 5 Alas! I knew not what I did,
But now my tears are vain;
Where shall my trembling soul be hid?
For I the Lord have slain.
- 6 A second look he gave, which said:
I freely all forgive;
This blood is for thy ransom paid:
I'll die that thou may'st live.

323 Amazing Grace. C. M.

1 { A - mazing grace, how sweet the sound That sav'd a wretch like me!
I once was lost, but now am found, Was blind, but now can see. }

'Twas grace that taught my heart to fear, And grace my fears relieved;

How pre-cious did that grace ap - pear The hour I first be-lieved.

- 2 Thro' many dangers, toils and snares
I have already come,
'Tis grace has bro't me safe thus far,
And grace will lead me home.
The Lord hath promised good to me,
His word my hope secures,
He will my shield and portion be
As long as life endures.
- 3 Yes, when this flesh and heart shall fail,
And mortal life shall cease,
I shall possess within the veil
A life of joy and peace.
This earth will soon dissolve like snow,
The sun forbear to shine;
But God, who called me here below,
Will be forever mine.

[Hymn No. 321 continued.]

- 4 Th' almighty Former of the skies
Stoop'd to our low abode.
While angels view'd with wond'ring eyes
And hail'd th' incarnate God.
- 5 Renew our souls with heavenly strength,
That we may fully prove
The height, and depth, and breadth, and length
Of such transcendent love.